



鹿港 龍山寺

鹿港 龍山寺

泉州系漢人移民の信仰を表す 代表的な建築

鹿港龍山寺は1786年に建造されました。清朝統治時代からすでに建てられていたこのお寺は、台湾に5箇所ある「龍山寺」の中で最も良好な保存状態を誇るものだとわれています。いまは国定一級古跡に指定されています。鹿港の住民は主に泉州系の漢人移民であり、台湾に移住してきたとき、故郷の神様もつれてきて祀りました。鹿港龍山寺に祀られているのは、全国の他の龍山寺と同じく「観世音菩薩」という女性の神様です。鹿港龍山寺の壁は書道家や絵師の作品で飾られています。特色ある建築としてだけでなく、数多い芸術品を有することでも、見どころに満ちています。



SNET台湾 みんなの台湾修学旅行ナビ
https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot_central/713/



エリア

彰化県

テーマ

歴史

建築

宗教

学びのポイント

1.

泉州系とは？

清朝期、台湾のエスニックグループは「先住民族」と「漢人」とに大別できます。「漢人」とは主に清朝統治時代に中国大陸から移ってきた人々を指し、さらに「ホーロー人」（「福佬」「河洛」と書く。閩南系台湾人）と「客家人」と分けられます。また、「ホーロー人」は出身地によって「泉州系」と「漳州系」とに分けることができます。同じ「ホーロー人」とはいえ、「泉州系」と「漳州系」は言葉のアクセントがところどころ違います。台湾に渡ってきてからも、分かれて暮らしていました。昔は、「泉州系」と「漳州系」の人々は利害関係などからよく争いとなり、「漳泉械鬥（民族間の武力衝突の意味）」と呼ばれました。現在では、このような対立はなくなっています。

2.

台湾で「龍山寺」と呼ばれるお寺は一つではない？

台湾に「龍山寺」と呼ばれるお寺は5箇所あります。北から順に、淡水龍山寺、萬華（艋舺）龍山寺、鹿港龍山寺、台南龍山寺、そして鳳山（高雄にある）龍山寺です。いずれも泉州系の移民によって建てられたもので、観世音菩薩を祀っています。

3.

壁にある書道や碑はどのように理解すればいい？

鹿港龍山寺の壁にある作品の芸術的価値は高いのですが、それだけではありません。お寺を改修する際、寄付した人の名前や改修に関する記録を碑に刻んでいます。そのため、碑は単なる石ではなく、極めて重要な歴史資料だといえます。